（公財）中央果実協会
No.257

米国カリフォルニア州　2023-24年度産ネーブルは廉価品が増える

The Packer　2023年10月23日

カリフォルニア州柑橘類組合の会長兼CEOであるケイシー・クリーマー氏は、カリフォルニア州の柑橘類産地では昨年大量の雨が降ったことが歓迎されたが、マイナス面はアザミウマの個体数の増加によって引き起こされた果皮の損傷であると述べている。

同氏は、アザミウマによる果皮の傷は、この2023-24年度の柑橘類生産を特徴づける話題の1つであると述べた。アザミウマの個体数は特に大雨が降った地域で増加したと言い、「こんなにひどいことは今までなかった。一部の地域では本当に制御できなかった」と述べた（以下「　」は同氏の発言）。その結果、生鮮柑橘類の出荷量が特にネーブル種で減るものと予想される。

カリフォルニア州の2023-24年度のネーブル種の出荷量は概ね昨シーズンに匹敵する。2023-24年度のネーブル種の推定出荷量は7,400万箱と、昨シーズンの7,300万箱からわずかに増加した。しかし、クリーマー氏はこの推定値では、アザミウマによる被害のために失われる果実は考慮されていないと言う。

アザミウマの被害により、出荷できる量はネーブル種全体の15%から8%減少すると同氏は言う。出荷されるネーブルのうち、「チョイス」級の果実の量が増え、上級品である「ファンシー」級の量が通常よりも少なくなると見込まれる。それはおそらくファンシー級の果実の価格上昇につながるだろう、と同氏は述べた。「アザミウマによる被害のために市場に出さないものを考慮すれば、ネーブル種の出荷量は少なくなるだろう。」

2023-24年度のマンダリンの出荷量は約10%減少し、レモンもほぼ同じだけ減少する可能性があるとクリーマー氏は述べた。マンダリンは現在、ネーブルオレンジに次いで州内で2番目に多い柑橘類である。「マンダリンは今も成長している商品だが、少しだけ減速しているように感じる。」

病虫害の検討

クリーマー氏は、アザミウマの影響を最も受けた区画では、果実は市場に出ず、利用されないと言う。生産者らは今シーズンの収益を懸念しており、業界のリーダー達は生産者のための災害支援への道を模索している。カリフォルニア州柑橘類組合は米国農務省に対し、グレードの低いチョイス級の柑橘類を同省の飼料プログラム用に購入するよう求めている。「この状況に対処する最善の方法は、市場を支援するのを助けることで、できるだけ多くの被害を回避することだと考えている。」

2023-24年度シーズンのもう一つの話題は、黄龍病（ホアンロンビン）（HLB：カンキツグリーニング病）の検疫区域の拡大だとクリーマー氏は述べた。カリフォルニア州食料農業局（CDFA）は10月初旬、ベンチュラ郡サンタポーラ市の住宅地にある2本の柑橘類の木からカンキツグリーニング病としても知られるHLBが検出されたことを受け、同郡に検疫を宣言した。このHLBの検出は、ベンチュラ郡で初めてであった。

CDFAは、同局の職員が感染した樹木の除去と処分に取り組み、検出場所から250メートル以内のすべての物件の強制調査を実施していると発表した。調査終了後、検出地点周辺250m以内の宿主植物には、病害媒介昆虫であるミカンキジラミを駆除するための処置を行う。CDFAによると、これらの検出により、発見場所の周辺5マイル（約8km）に強制的なHLB検疫エリアが設定された。

HLBは住宅地で発見されたが、クリーマー氏は、商業的な柑橘類生産にかなりの影響を与えるという。「生産者は、検疫規則を守りながら収益を維持する方法を見つけ出そうとしている。」 検疫地域の生産者は、HLBの蔓延を防ぐために少なくとも1つの緩和策を講じる必要があり、果実が検疫地域の梱包施設に移動される場合は、2つ目の緩和策が必要である。通常、生産者はミカンキジラミを駆除するために、果樹に農薬を散布する必要がある。

ベンチュラ郡の検疫地域ではレモンの生産が多いが、クリーマー氏は、レモン生産者らは3年間にわたって価格が低迷していると言う。

「この地域では、多くの生産者が非常に難しい決断を下し、多くの不確実性を抱えている。」 クリーマー氏

は、カリフォルニア州柑橘類組合は、この病気の蔓延を抑制し、検疫規則を可能な限り実用的で実行可能なものにするために努力すると述べた。

輸出市場

カリフォルニア州の柑橘類の出荷業者は通常、果実の約30%を輸出市場に出荷しているが、クリーマー氏は、昨シーズンはその割合がおそらく15%にまで落ち込んだと言う。中国との貿易戦争の開始からコロナ禍、輸送の問題まで、さまざまな課題を抱える中、生産者は望んでいたほど多くの輸出市場にアクセスできていないとクリーマー氏は言う。

執筆者: トム・カースト

（2024年3月に「黄龍病」の、同年5月に「柑橘類組合」の表記を修正しました。）

（関連記事）米国　2022-23年度の米国産柑橘類の輸出はまちまちな傾向

The Packer　2023年10月24日

米国農務省によると、2022-23年度出荷シーズンにおける米国産柑橘類の輸出は、様々な傾向を示した。

同省の販売年度（9月～翌年8月）のデータによると、柑橘類の総輸出額（グレープフルーツ、レモン・ライム、オレンジ・タンジェリンの合計）は7億5,100万ドルで、前年同期の7億4,800万ドルからわずかに変化したに過ぎなかった。同省によると、これらの柑橘類の総輸出額は、パンデミック前の2019年の合計9億5,100万ドルをはるかに下回っている。（以下同省のデータによる。）

オレンジとタンジェリンは、2022-23年度の輸出額が5億9,200万ドルで、柑橘類の中で昨年度の輸出額が最も多かった。2022年からは8%増加したが、2年前からは14%減少した。カナダとメキシコへの輸出は増加したが、アジアの大部分の輸出先への出荷は減少した。

2022-23年度のレモンとライムの輸出額は1億3,200万ドルで、昨シーズンから14%減、2年前に比べて11%減となった。

生鮮グレープフルーツの輸出額は40%減少し、昨シーズンの4,430万ドルから2022-23年度には2,700万ドルに減少した。2022年から2023年にかけて、韓国（54%減）、日本（51%減）、カナダ（20%減）など、多くの主要グレープフルーツ輸出先への出荷が減少した。

ベトナムやインドネシアなどの新興市場では、2023年の柑橘類の買付けが減少した一方で、中米諸国への輸出が増加した。

中国への輸出はほぼすべての柑橘類で減少し、中国との貿易関係が不透明になっていることを示している。

要約すると、柑橘類の総輸出は回復してきているが、北東アジアの減少は中米諸国の成長とは対照的で、主要な貿易相手国との間で変動が見られる。

執筆者: トム・カースト